

そうじの力だより

VOL.238



支援レポート

「楽しくやる」ことが、取り組みの「ミソ」
 ～そうじの力は会社を明るくし、雰囲気「する」～

石見交通グループは、島根県西部で路線バスを運行する石見交通(株)を中核として、エネルギー事業や観光事業を展開するグループ企業です。

ここで十二年前から、弊社のお手伝いで「そうじの力」と称して整理・整頓・清掃の活動が続けられています。

現在、年に三回筆者が訪問し、勉強会を行っています。

同社の特徴は、グループ全社を挙げ取り組んでいるということと、楽しく活動している、ということだ。

勉強会には、各部署・会社からそれぞれのリーダーが参加し、この三か月間で実践したことを発表し、お互いに刺激しあっています。

以下、先日の勉強会でのようすを抜粋してご紹介します。



各社リーダーによる勉強会のようす

本社の総務・経理部門では、会社周辺のゴミ拾いと、各バス停の清掃を定期的に行っています。

活動を通じて、破損個所に気づいたり、お互いのコミュニケーションが高まるのを感じているそうです。



ターンテーブルの奥まで雑巾で拭く

ここで、預かり荷物を搬送するターンの清掃を定期的に行っています。ター

総務部の新人の中島さんは、「入社して、物の位置が決まっているのでわかりやすく、ビックリしました。」と感想を述べています。



バス停の標識版の清掃のようす

ターンの清掃を一枚つつ丁寧に雑巾で拭きあげていくと、雑巾が真黒になるそうです。全国にたくさんある空港の中でも、こうした活動をしているところは少ないそうです。

同空港は、第十回ANAクオリティアワード総合部門最優秀賞をはじめ、たくさんの方を受賞しています。

石見エアサービスの和田さんは、「一人ひとりが日常の業務を見直す観点を持てるようになりました。部署の垣根を越えて協力できるようになって、楽しく活動できています。」と言っています。

石見観光の大田営業所では、入居しているビルの建て替えに伴い、仮事務所への引っ越しを進めています。



軽トラ1杯分の不要書類

これまでの「そうじの力」で不要ものをずいぶん捨ててきたはずですが、今回の引っ越し作業で精査したところ、さらに大量の書類やパンフレットを廃棄したとのこと。あらためて、普段から整理することが大事だとわかったと言います。

伊ワミツアー広島支店では、少ない

人数ながら、自分たちで身の回りの環境整備に取り組んでいます。

駐車場のラインが薄くなっているの、ペンキで塗りなおしました。最初は養生テープを両端に貼ってペンキがはみ出さないようにしていたので、二本の木材を使っ



2本の木材をガイドに駐車場ライン引き

仕上がることに気づき、途中からやり方を変えたそうです。

清水支店長によれば、「乗務員の方から、溝そうじをみんなやろうよ、などの提案が上がつてくるようになりました。協調性も出てきています。」とのこと。

小河英樹社長は、「肝要なのは、今までのやり方を変えること。今日集まっている人たちの中には、そうじの力を通じて昇格した人も多く、これに会社の将来がかかっている。新人も育っている。『リーダーシップ』『コミュニケーション』『楽しくやる』の三つが大事。そうじの力のおかげで、石見交通に入りたい、と思って新入社員が入ってくれた。明るいよい雰囲気になっている。」と活動を総括しています。(小早)



コラム

「捨てる」ことの意味を考える
～「捨てる」とは、執着を断ち切ること～

私はお手伝いする先々で、しつこく「まづは不要なものを徹底して捨てましよう」とアドバイスしています。

なぜ捨てることが重要なのか、あらためて考えてみたいと思います。

物理的な側面では、不要なものを捨てることによって、必要なスペースを確保することが、大きな価値を生みます。

我われ日本人は、この狭い日本の国土に生きています。使いもしないものがたくさんあれば、有効に使えるスペースが極端に狭まってしまいます。

スペースが広ければ、自由に動けるので、単位時間になせる仕事量が増えます。逆にスペースが狭ければ、動きが悪くなり、余計に時間がかかってしまいます。

つまり、「スペース＝時間」なのです。

では、時間とは何かといえば、突き詰め考えれば、「お金」ということではないでしょうか。「時は金なり」と言います。

一方で、「捨てる」ことの精神的な側面を考えてみるとどうでしょうか。

モノには、そこにまつわるコトが絡み合っています。モノは、思い入れや思い出の象徴と言えます。モノがそこにあると、その執着を断ち切ることができません。

私自身の卑近な例をご紹介します。

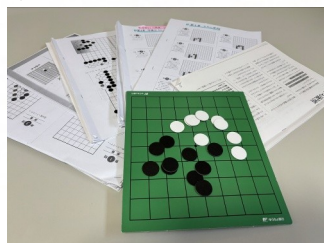
私は一年ほど前まで、囲碁を習っていました。以前から囲碁をしたいと思っていたので、最初は独学で本などを読んでルールを覚え、次にスマホのアプリを入れて、コンピュータを相手に対戦していました。

しかしなかなか上達せず、ちょうど自宅近くの公民館で囲碁教室をやっていると知り、その講座に通うようになりました。先生は高齢の男性で、ボランティアで教えてくれました。

それでも私は上達せず、対戦してもボロクソに負けてばかり。そのうちに、「自分には囲碁は向いていない」と感じ、つまらなくって教室を退会してしまいました。

それから一年半ほど経ちますが、辞めてよかったと思います。仕事も忙しい中で、囲碁に費やしていた時間を、合気道とギターに振り向けることができるようになりました。

そんな中、私の部屋の書棚には、囲碁教室で配られたテキストや道具が放置されたままになっていました。それを見るときに、私の中に苦い思い出がよみがえってきました。「もういいかな」と思いつつも、「もったいない」という気持ちもあり、捨てられずにいました。



でも先日、思い切ってそれらを全部捨てました。その時の爽快感は、格別でした。モノを捨てたことで、ようやく囲碁に対する劣等感から解放された、という感じでした。

この精神的余裕が、今自分が本当に注力したいことにエネルギーを注ぐ原動力になるのです。
(小早)

編集後記

祝・二十歳

娘が先日、二十歳の誕生日を迎え、おいしい懐石料理の店で、お祝いの食事会をしました。

今は法律が変わり、18歳が成人だそうです。様々な制限があり、やはり二十歳が区切りだと感じます。

まだ大学生で親元に居るので、特段に感慨深いということはありませんが、まあ20年間、元気に生きてきてくれただけで、ありがたいことです。

自由に羽ばたいてほしいと思います。(小早)



飛鳥のつぶやき

行き違いパニック



習い事の日、長男の下校時刻を勘違いして大パニック！

思っていたより30分も早かったことに次男を迎えに行っていた車内で気づき、大急ぎで待ち合わせ場所へ。

友達に「学校にいるよ」と聞けば学校へ、次は「もう帰ったよ」と聞いて家へ——完全にドラクエ2ローレシア王子状態に。

最終的に、長男と家の前で同時到着。会えて一安心！やはりGPS、必要だな～(;▽;) (大概)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨くコンサルティング

弊社は“そうじ＝整理・整頓・清掃”を通じた企業風土改革を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場巡回を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を

原則としますが、企業規模や現場の状況、ご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。

また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)